



JICA
開発教育
フォーラム
2023

開発教育オンラインセミナー 総集編

五感でとらえる世界のリアル。
ジブンゴトにつなげるために。

2023年度 3月号

2023年度の開発教育オンラインセミナーは、全6回「見る(視覚)」「聴く(聴覚)」「触れる(触覚)」「味わう(味覚)」「嗅ぐ(嗅覚)」「感じる」をテーマに、多彩なゲストにご登壇いただきました。今回はその総集編をお届けします！



第1回 味わう(味覚) 7月26日(水)19:00~



講師：本山 尚義 氏
世界のちこそ博物館 オーナー

食を知ることが世界を知ること。
世界の料理を通じて、文化・歴史を知り、認め合える社会を作っていきたい。

本山さんが料理に魅了され、世界30カ国で料理を学んで知った世界のリアル。多くの人に世界の料理から世界の課題を知ってもらいたいという想いから、現在は世界の料理をレトルトにして製造・販売しています。ひとつひとつの料理には独自の歴史があり、料理を味わうことで世界の課題を考えるきっかけになるということがわかりました。

ゲストの藤野菜穂子先生(横浜市立並木第四小学校)は、学校内のサードプレイス(児童にとって居心地の良い居場所)を目指す国際教室「ふじこや」で活動しています。外国につながる児童も多い学校なので、図書室や給食室と連携して、給食の献立にインドネシア料理やベトナム料理を取り入れました。児童からは、「美味しかった!」「ベトナムは私の国なんだよ」と嬉しい発言がありました。(参考資料は[こちら](#))



↑ゲスト：藤野 菜穂子氏の講演より

▶▶概要・講師プロフィールは[こちら](#)(第1回特設サイト)◀◀



第2回 触れる(触覚) 8月23日(水)19:00~



講師：伊達 文香 氏
株式会社イトバナシ CEO兼デザイナー

~だからできないを、~だからできるに変えていく。
自分が動けば、1秒先の未来は変わる。

幼い頃から手作りされたものに惹かれていた伊達さん。大学時代に訪れたインドで、各地の文化や伝統を色濃く反映している素晴らしい刺繍と出会います。そして、伊達さんは人身売買の被害にあった女性たちを対象とした縫製の職業訓練のサポートも経験します。これらの経験から、社会問題の原因は何か、現状を良くするためにどんな方法があるかを考え、自分ができることから始めようと、インドの刺繍を使ったファッションブランド「itobanashi」を立ち上げました。「~だからできないを、~だからできるに変えていく」という信念を大切に、新たな発想で仲間と共に前進し続ける伊達さんの言葉はとてもパワフルでエネルギーに満ちていました。

ゲストの織田雪江先生(同志社中学校・高等学校)からは、「触れる」と「エンカル消費」につながる授業や課外活動の事例をたくさんご紹介いただきました。活動を通して生徒たちが行き着いた「モノのうしろにある物語を知ることが大切」という考えは、まさに伊達さんの思いにも通ずるものでした。



↑ゲスト：織田 雪江氏の講演より

▶▶概要・講師プロフィールは[こちら](#)(第2回特設サイト)◀◀

第3回 嗅ぐ(嗅覚) 10月23日(水)19:00~



講師：長谷川 勝彦 氏

日東珈琲株式会社 カフェパウリスタ
代表取締役社長

コーヒーの有機栽培は難しい。
だからこそ現地へ赴き、直接取引をすることで生産者さんを守りたい。

かつてブラジルの労働者が不足した時代に、多くの日本人が移民として海を渡りコーヒー農園で働きました。ブラジルサンパウロ州政府は、カフェパウリスタの創業者である水野龍氏のブラジル移民事業に尽した功績に報い、また、日本におけるブラジルコーヒーの普及を目的として、コーヒー豆を無償で提供しました。その後、カフェを引き継いだ長谷川さんのお祖父様方のコーヒー普及の努力が実り、日本は世界に誇るコーヒー消費大国となりました。長谷川さんは、無農薬や化学肥料を使わないコーヒー栽培にチャレンジしている生産者を応援するために、直接現地へ赴いて買い付けを行っています。フェアトレードの有無よりも、現地の生産者の方々を守ることが最も大切とお話しされました。

ゲストの杉山拓哉先生(北海道興部高等学校)からは、日系移民・多文化共生をテーマにした授業実践についてお話いただきました。教材「いみんトランク」の活用や「国際協力出前講座」を利用したアルゼンチンの研修生との交流を実施しました。外国につながる人々や文化に直接触れる機会が少ない地域であっても、五感を通じて世界について学ぶことができると、熱心にお話してくださいました。参加者からは、「日本からの移民だけでなく、ブラジルに希望を持って移住されたであろう全ての人々の現地での生活に、改めて思いを馳せる事が出来た」という感想が寄せられました。



↑対談の様子

▶▶概要・講師プロフィールは[こちら](#)(第3回特設サイト)◀◀

第4回 見る(視覚) 12月20日(水)19:00~



講師：関根 健次 氏

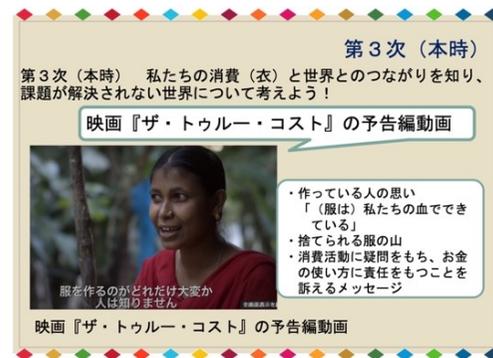
ユナイテッドピープル株式会社 代表取締役

戦争は人間が生み出したもの。
人間が生み出した問題は、人間自身が解決できる。

大学の卒業旅行で偶然、パレスチナのガザ地区を訪れた関根さん。出会った子ども達に将来の夢を聞くと、ひとりの少年が「僕の夢はヒトラーのようにユダヤ人を虐殺することです」と語ったそうです。彼には4歳の時に家族を殺された悲しい過去があることを知り、関根さんはこのような「憎しみの連鎖」をどこかで断ち切らなければならないという想いを強く持ちました。その後、関根さんは紛争地のための募金サイトを立ち上げるなどの活動を始めましたが、構造から変えていかなければ戦争は無くならないと考えるようになりました。「感動」はいずれ人を動かす。」映画は感動を人に届けることのできるメディアであると考え、ユナイテッドピープルを企業したそうです。

ゲストの児玉やこ先生(弥富市立弥富北中学校)からは、「見る」資料を活用した家庭科の授業実践を紹介いただきました。映画「ザ・トゥルー・コスト」の予告編動画を使い、衣類の消費と世界のつながりやファストファッションの社会問題について学ぶ授業を行いました。世界のリアルに迫った映像や写真を教員が適切に選び、効果的に使うことで、児童生徒がより深く学ぶことが可能になることが分かりました。

参加者からは、「映画で感情が揺さぶられて、その結果、行動を起こす、ということはとても素敵なことだと思ったし、自分もできることから行動したいと思った」というコメントがありました。



↑ゲスト：児玉やこ氏の講演より

▶▶概要・講師プロフィールは[こちら](#)(第4回特設サイト)◀◀



第5回 聴く(聴覚) 2月7日(水)19:00~



講師:大儀見元氏
パーカッショニスト

聴くことが9割。
受け入れる姿勢を保つことで人と人との
セッションが生まれる。

幼少期にビートルズのレコードを聴いて音楽と出会った大儀見さん。高校時代に「Our Latin Thing」の音源を聴きラテン音楽に魅了され、「自分はアメリカに行くんだ!」と直感的に感じたそうです。ラテン音楽のひとつサルサが生まれた街NYで、自らが率いる日本人バンド、オルケスタ・デ・ラ・ルスが受け入れられ、自分たちの音楽で踊っている人々の姿を目の前にして、大きな喜びを感じたそうです。大儀見さんは世界各国の人々と関わる中で、さまざまな文化の違いも肌で感じてきたそうです。ラティーンと出会ったときは、ハグなど直接的な表現の良さを感じ、アフリカのギニアでは人々が日常的に路上でパーカッションを叩いているのを見て、その表現の自由さに圧倒されました。世界の音に触れ、音楽は本来オープンであるものだ、あらためて気が付くことの連続だったそうです。

ゲストの森美緒先生(京都府立洛水高等学校)はJICA海外協力隊としてベリーズに赴任した経験と帰国後の授業実践についてご紹介いただきました。赴任した初回の授業では、生徒が遅刻をしたり席に着かなかったりと授業にならず、苦い思いでスタート。自分が勝負できるのは音楽しかない、と心を決めた森先生は、現地のラブソングを熱唱して生徒の気持ちをつかみました。そんな生徒たちが有志で集まった合唱クラブは、ベリーズの全国大会に出場することに。森先生はこの経験から、「〇〇したい」という生徒たちの興味を大切に授業を現在でも心がけているそうです。

参加者からは、「ちがうことが素敵」「混ぜることが面白い」を実感しているお二人の話聞いて参考になった」という感想がありました。



↑対談の様子

▶概要・講師プロフィールは[こちら](#)(第5回特設サイト)◀



第6回 感じる 3月6日(水)19:00~



講師:岡本啓史氏
国際教育家・生涯学習者・パフォーマー

3L(ミエル)=LEARN, LOVE, LIVE を大切に。
「五感」を使った様々な体験を通じて、
3Lスキルを楽しく身につけられる学舎を作りたい。

岡本さんは、五感を使って楽しく学ぶことを大切に、世界中で教育分野の国際協力活動をされています。今回は100名以上がセミナーに参加しました。岡本さんはオンラインセミナーであっても、お互いのコミュニケーションを大事にされ、どの国のストーリーを聞きたいか、投票機能で聞かれました。投票で選ばれたのはチリでのストーリー「夢と現実のギャップに葛藤」。ユネスコのインターンシップとして、国際支援・国際協力の仕事に初めて関わった経験を話してくださいました。岡本さんは、この激動の時代を生き抜くには3L(ミエル)=LEARN, LOVE, LIVEの3つが大切であり、「五感」を使った様々な体験を通じて、子どもたちが自分に適した3Lのスキルを楽しく身につけられる学舎(まなびや)を日本で作っていきたいという将来の夢もお話いただきました。

ゲストの竹辺このみ先生(津市立堅田小学校)は、今年度JICA「教師海外研修」に参加した後、ペルーで感じたことを児童にどのように伝えたら良いか悩み、そこからさらに「多文化共生の文化」共創プログラムに挑戦されました。2つの研修での学びや出会いを活かした授業づくりをし、子どもたちの視点が変わっていった様子や、五感を使った教材を活用した授業も紹介いただきました。



↑ゲスト:竹辺このみ氏の講演より

▶概要・講師プロフィールは[こちら](#)(第6回特設サイト)◀

五感を通じて、他者の視点や多様な価値観を知って理解を深めることで、遠く感じがちな世界のリアルをより身近に感じる。五感を活かして世界とつながる体験は、私たちの感性をさらに豊かにし、異文化への理解を深める貴重な機会となる。多彩なゲストの方々から、魅力あるたくさんのヒントをいただきました。2024年度の開発教育オンラインセミナーも、ぜひお楽しみに!